

十五. 今も盛んに行われている棕橋総社の秋祭り

棕橋総社の祭礼の主なものは現在、元旦祭は一月一日、えびす祭りは一月九日、十日、十一日、春祭りは四月十四日、夏祭りは七月十四日、秋祭りは十月十三日、十四日、新穀感謝祭は十一月二十三日に実施しています。

夏祭り、秋祭りには獅子が氏子の各家をめぐります。秋祭りには宮之町、仲之町、南之町三台の太鼓台が揃って宮入りします。十三日の宵宮の夜、十四日の本祭りの昼には布団太鼓で、

本祭りの夜は梵天で宮入りします。特に、本祭りの昼にはお旅所(写真)前に三台の太鼓台が集合し、獅子とともに宮入りします。太鼓台は鳥居前から台車をはずし、約二百メートルほどの馬場を担いで宮入りします。庄本の人にとって、秋祭りは楽しみである一方、その保存管理、組立て、巡行等は大変です。

この祭りは何時から行われていたのか、詳しいことは殆ど判りません。ただ、獅子頭は池田筑後守の嫡子多門丸の武運長久を祈って当社へ寄進され、その後、氏地の各村は獅子頭を頂戴して神事を行いました。やがて、各村も神社を建て、氏地を離れていきました。光國寺文書によれば、棕橋総社の元禄時代の祭礼の形として、福菱餅を神前に供えたと書かれています。太鼓台の巡行はいつからか確かなことはわかりません。ただ、文政時代の文書によれば、「不作なので太鼓台を出さなくてもよいか」と申し出ている。また、仲之町の太鼓台の太鼓の皮の張り替えのため、業者がその皮を剥がし、胴の中には享和二年(一八〇二年)の年号がありました。

庄内神社の例祭日は十月十六日、十七日となっていますが、各旧村の太鼓台や山車等が宮入りします。ただ、最近では洲到止八幡宮のように、十月十日前後の土・日・祝日にしているところもあります。



棕橋総社 お旅所